

## 特色ある区づくり予算事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
伊藤 直	新津川遊歩道へのトイレ、ベンチの設置	遊歩道利用者の快適性向上ひいては利用者数アップのためのトイレとベンチを適当位置に設置して頂きたい。特に女性にはトイレは必需であり、散歩中に疲れたときなどに腰掛ける場所があると良い。 散歩者に優しい遊歩道となり、利用者増加が期待できる。	トイレは滝谷本町付近と桃源橋付近の2箇所 (例えば) ベンチは差し当たり、水仙ロードの桜並木、各木橋付近などに設置
伊藤 直	新津川環境改善	新津川の水量が僅少のため水質が非常に悪くなっており、河道にヨシが繁茂するなど景観と環境が悪化している。	現能代川本流から新津川へ水を引き入れる可動堰が故障しているのが主因。 早急に堰を修理し、良い環境が保てる適量水が常時流れるよう管理して頂きたい。
伊藤 直	新津川遊歩道管理の仕組みづくり	現在の新津川遊歩道はかなりの部分に雑草が生い茂り、植込みや数が道にせり出し利用者に荒廃感を与え、女性、児童には恐怖感さえ与える区間が数ヶ所ある。全長の雑草刈り、植込みの刈込みを年数回定期的に実施し、清々しく美しい、女性、子供が歩いて安心・安全な遊歩道として維持する仕組みを区、地域、有志で作っていくことを提案する。	区、流域関係コミ協、自治会、有志などが検討会を持ち、左記の様な仕組みを立上げ、参加団体、グループの担当範囲(右岸、左岸、担当箇所等)を決め、少なくとも年5~6回除草、枝刈り等を行う。 将来は実行共同体のようなものにまでもっていかねばと思う。  【事業概要費】各参加団体に対し、助成を行う。  【その他参考事項】 9月12日現在、左岸飯柳地内の桃源橋から下流、金沢町地内に至る間の遊歩道の数がひどくなっている。歩道から木橋への降り口が判らないほどに藪に被われているところが数ヶ所ある。早急に刈り払いを行って頂きたい。
伊藤 直	菩提寺山歩道泥道対策	菩提寺山は冬季も含め登山者が多い。しかし、積雪量が少ない時や降雨時には里山ビジターセンターから山頂間の稜線上の鞍部(数ヶ所ある)付近の登山道が泥道状になる。このため登山者が登山道脇を歩き、増々泥道が拡幅していく。登山道が荒廃し、植生が破壊されることを防ぎたい。	1、対策検討会のようなものを作る(登山道修復の専門家にも相談) 2、現地調査を行い、適切な対策を検討する 対策案として 遊歩道整備作業等で発生した伐採木、枝等を敷く 外部から砂利、砂、シュロ繊維などを持ち込み被覆する 水はけ改善のための水みちを付ける など 費用(資材費、労務費)は市が負担 3、施工案 1、業者に依頼 2、有志、自治協委員、里山ガイドなどが労力奉仕する いずれかまたは双方  【事業概要費】資材費、労務費
青木 貞義	自然災害に対する強靱な地域防災力の推進事業～防災士活動に助成金の交付～	最近は大規模な自然災害が頻発し、甚大なる被害が発生している。しかし8月3日、4日に発生した県北部の「関川村・村上市」の大規模災害に地域の防災リーダーである防災士の先見性・想像力を駆使した普段の防災意識の向上と防災訓練により、死者0、人的被害1人の劇的な軽微な被害であった。 しかし、地域防災の要である防災士は新潟市内で311人、秋葉区では21人と市内8区の中で7番目と少なく、活動経費も自己負担に頼っているのが現状である。因って今後は、地域に於ける課題の発掘・検討や、更なる防災意識の向上など取り組みの強化により、強靱な地域防災力の推進を図るためにも、防災士の活動に助成金を交付する必要がある。	左記目的を達成するためにも、「防災士の会秋葉支部」が主体となって、秋葉区独自に「防災の日」を設定、防災講演会や防災訓練を実施する。  (その他参考事項) 過去55年大きな自然災害がなく、危機管理意識が希薄になっている。人口減少、高齢化が急加速する中、地域で活躍する防災リーダーが強く求められていることから、地域防災力の向上を目指して、あらゆる機会を活用して、防災士資格取得の働きかけを進める。
蓮沼 美宣	公共交通利用促進事業(継続事業)	鉄道やバス等の利用促進を図り、通勤・通学や生活交通の維持と向上を目的に行う。	これまで実施している「秋葉区公共交通ガイド」の配布を継続実施するとともに、新聞等折込配布を見直し、公共施設等に配置し必要な人が入手可能にする。 これにより印刷部数を削減し経費の削減が図られる。
金子 洋二	(コミュニティ)地区ビジョン策定支援事業	コミュニティ協議会単位での地域未来ビジョンの策定を支援し、地域経営の強化を図る。	各地区1~2回の住民ワークショップ。開催のために専門家を派遣する。ビジョン策定のプロセスは基本的に住民が主体的に行うものとし、自治協とも連携して行う。自立した持続可能な地域コミュニティの形成に向け、必須プロセスである。  【概算事業費】50~100万円

特色ある区づくり予算事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
田中 幸一	自治協議会においてタブレット端末を活用	自治協議会定例会議においてタブレット端末を活用して毎回膨大になる会議資料をデジタル化し、ペーパーレス化を実施する。	<p>来年度から自治協議会定例会議において、配布資料を無くしてタブレット端末を活用する。タブレット操作に慣れるまで、1年間の試行期間を設け配布資料は現状維持とする。</p> <p>2年後の効果としては、毎回膨大になる会議資料をデジタル化する事で、区役所職員の手間や、資料を保存する委員の負担軽減になる。印刷経費削減が期待される。</p> <p>【概算事業費】タブレットの購入品 30台</p>
渡邊 彩	こどもとつながり支えるプロジェクト事業	子どもに関する課題についてともに考え、解決に取り組む人財育成とネットワーク形成を目的とする。今年度は子どもの相対的貧困・社会的孤立を防ぐための活動について情報を共有し、秋葉区内での現状把握とネットワーク形成を目指す。	<p>3~4月 企画会議 ① 5月 広報開始、参加者募集 6月 企画会議 ②ワークショップの詳細を企画検討する 8月 講演会とワークショップ 講師：河合純様（現在：東京福祉大学教授、新潟市・燕市スクールソーシャルワーカーアドバイザー） 会場：秋葉区文化会館 * プログラム内容についてはその他の項目に記載。（※別紙P5） 11月 希望参加者同士での交流研修会 1~2月 成果報告会・次年度に向けたふりかえり・報告書作成 企画会議メンバー：自治協委員、区役所職員（児童福祉課・教育センター・社会福祉協議会）、このほか子どもに関する活動に携わっている方</p> <p>【概算事業費】250,000円</p>
渡邊 彩	食べることを考える	こ食（孤・個・偏・固）を防ぎ食の重要性を理解するために、食文化・食に関する産業に携わる方々から話を聞き、体験的に学ぶ場をつくる。	<p>いつ：2か月に1回ほど 誰が：自治協が主となりつつ、公民館、各施設、団体、企業等 何を：以下のような講座 講座例</p> <p>第1回 あなたにとって「食べる」とは 講義とワークショップ 食べる選択について考える 第2回 うちの自慢料理を「食べる」 体験とお話 各家庭の自慢料理を調理して、試食を行う 第3回 農園に行ってみよう 体験とお話 A 高塚農園さんへの訪問、実地研修 柿もぎ体験 B 川崎農園さんへの訪問、実地研修 自然農法 第4回 発酵文化について聞いてみよう 講義とワークショップ 渋谷味噌の社長さんからの講演と 第5回 海外とつながっている「食べる」講義とワークショップ 榎本淳さん フェアトレードについて「コーヒーとカカオ」</p> <p>（その他参考事項）*先方との調整によるが、宿泊型にして、都市部からの学生のインターンシップ体験、観光、移住促進等として開催するのもよいかもれない。</p>

特色ある区づくり予算事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
荒井 武雄	「SLと賑わいの歩道」整備事業	目的：JR新津駅西口から「秋葉区文化会館」までの道路と歩道を整備し、「花とみどりのまち」造りにマッチするモデル歩道とし、「撮り鉄」ファンの集客や区民の「憩いの道」が創出できる。 課題：JR用地の取得 ：別紙案内図（P6）にある道程は一部区間で道路の形態すら備わっていない現状にあり、区外の方々に勧められないものである	内容 (1) 区間：JR新津駅西口から秋葉区文化会館まで（別紙案内図P6） (2) 内容：別紙案内図（P6）①区間で歩道、②区間で道路、歩道、③区間で歩道をそれぞれ整備する (3) 用地：①～③区間でJR用地の取得、鉄道施設の移設が必要となる 効果 (1) SL発着駅である新津駅構内を背景とする撮影ポイントとして全国から訪れる「撮り鉄」ファンの集客 (2) JR利用で文化会館への来館者の安全と行き帰りを楽しんでもらう (3) 第一中学校生徒の通学路として安全が確保できる
坂上 恵子	活かす鉄道の町	鉄道の町を活かす。その周辺地域の活性化。鉄道資料館のリニューアル。	資料館の移転は難しく（移転先、土地、交通等）既存の施設内をリニューアルし、近くにハーブ園を作り（ハーブティーでも飲める所があれば良い！）駅から資料館までの道のりの整備（歩道の整備、看板設置（鉄道をアピールするもの）） 家族連れで来て奥様はハーブ園を楽しみ、子供は鉄道を楽しむ（ミニSLもあり、グッズもある）
花水 真由美	農業体験を通して食への関心を持とう！	・自分で育てた野菜、果物には愛着があり、残さず大切に食べるのでは・・・なかなか自分ではできない作物作りを農業体験という形で取り組んでみたらどうか？	農協や指導に協力してくださる農家の指導で春、夏、秋の作物を育てる体験をする。
花水 真由美	A k i h a もち麦 もつともち麦	秋葉区の特産品である「もち麦」を、もっと身近に感じてもらい知名度をあげていく。	令和5年度の区づくり予算では「もち麦事業」は入っていません。令和4年度で3回行った「もち麦Cookinng」の効果・反省点をふまえ、継続していく事で知名度を高めてもらう。またもち麦生産者との交流やもち麦の農業体験を取り入れることで身近に感じられるようになるのでは。
長谷川啓子	おいしく食べて健康増進 秋葉の里白雪もち麦 魅力発信作戦 区民リーダー育成事業「もち麦倶楽部」	2015年からスタートしたもち麦のブランド化、特産化であるが、秋葉区民に十分に認知されているとは言えない状況にあると思う。今後の生産量拡大、商品開発、首都圏への販路等を見こして、秋葉区民がもち麦の良さを理解し、「もち麦を秋葉区の特産品に育てたい」と意欲的に活動するリーダーを育成する。	年間8回程度の講座を開催する 参加者は広報紙等で募集をかける 活動規模は15名程度とする 他地域の実践事例研究 病院での大麦（もち麦を含む）活用例研究 将来に向けて商品開発の可能性を探る 市場調査、先進地との交流 もち麦栽培農家との交流、栽培現場見学 もち麦プロジェクトに関わった人たちから生の声を聞く  【その他参考事項】 上越市で「はねうまもち麦」の名称で販売されている 手軽に使えるバックご飯が販売されている（越後製菓） 医療現場での活用として「慈恵大学病院のおいしい大麦レシピ」（出版文化社）がある
坂口 憲夫	花のまち・食のまち・育てるまち	物価高の中、小麦の価格も上がって中中で、小麦に変わるものとして秋葉区のもち麦を使った商品開発を一層進めてブランド強化をはかる。	商店街やJA、食品会社、また薬科大などと共同して商品の開発と販売ルートの開拓をする。もち麦の味の評価は低いと思うため、健康食品として拡販するか、米とブレンドして小麦に負けない味と価格にした商品の開発や、販路の拡大を図る。 (県外や隣県、また海外の食料不足にも対応したり、米粉などをブレンドして味を引きだし、秋葉ブランドを作る。)
佐々木 美佳子	A k i h a うん米推進事業	・米の製作体験（家庭で簡単に栽培できるミニキット）による購買意欲の促進。 ・ご当地カレーの製作を行い米の消費拡大を促進。	・秋葉区の地元食材を使ったカレーの製作・お米とのセット販売。 ・家庭で簡単に米栽培できるミニキットを作成し、お米のありがたみやお米を食べようという気持ちを育てる。 ・おにぎりコンクールを行い、特賞としてお米はもちろん、トラクター試乗体験。脱穀の様子を見れる体験をバックにする。 ・大学との共同により、学生の力を借りて賞品そのものを開発。PR方法なども新しい形を探っていく。

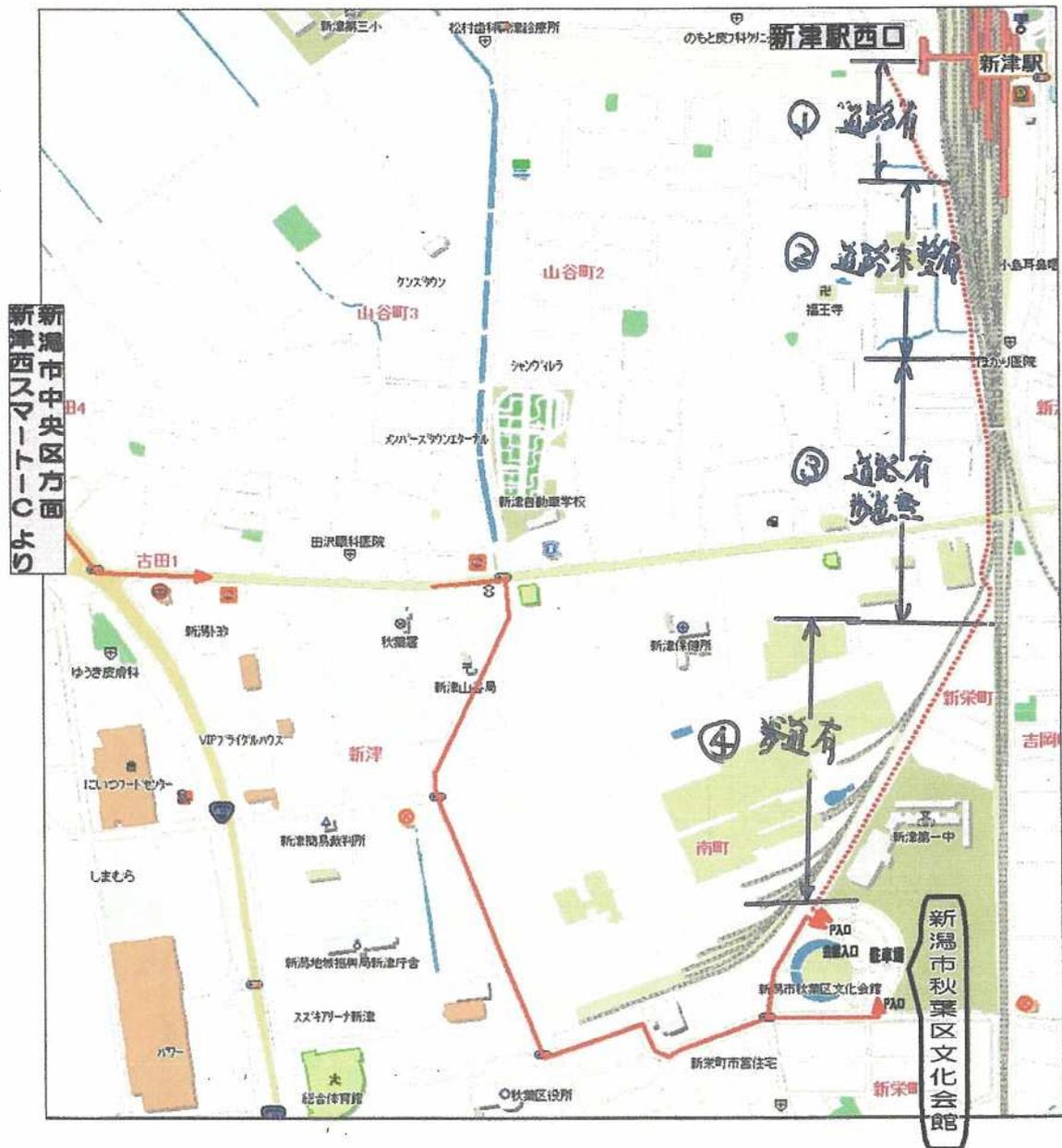
特色ある区づくり予算事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
佐々木 美佳子	Akihaなつかし横丁	・秋葉区に行ってみよう！こんな素敵な人情のある街中を巡りたい。懐かしい、温かな気持ちを呼び起こす。	・秋葉区のポイントを決めてSLのように装飾した、人力車又は人力自動車で観光する。秋葉区の観光客集客。 ・インスタ映えスポット・名物などをピンポイントで巡ることができる ・季節の良いときに限定して春と秋の一定期間に行う ＜例＞：春4月末～6月、秋9月末～11月 ・事業者または実行委員を募り、案内マップ制作と共に人とのふれあい、味のある人物の探訪を行う。 ・あたたかな人情、また行ってみたいおいしいもの。ちょっといつもと違う経験で、秋葉区に住んでみたい。また行きたいと感じてもらおう。
小山 裕史	新津駅 東口前の活性化事業	駅前の横断歩道前に信号に合わせて開閉する遮断機を設置し、鉄道の町新津をアピールする。	商店街に設置してある遮断機を駅前の横断歩道に移設、信号に合わせて開閉し、鉄道の町新津を強烈にアピールする。
小山 裕史	新津駅前昭和公園整備事業	① 現在は草だけの広場、通勤通学等の通路として使用。遊んでいる子はあまり見ない。 ② 夏休み中、3善道のラジオ体操、ドッホールの会場として利用していた。大人・子供含めて30人/日利用。	① 遊具・大きなトイレ付休憩所・駐車場等を完備し地元の子供たち、他地域の子供たちに多く利用してもらい、子供、大人の居場所としても有効活用し、新津の活性化を図りたい。
小山 裕史	新津駅 東口右 旧駅中サテライト有効利用事業	窓ガラスのある場所に、大型モニター設置事業	旧駅中サテライトの窓をはめ込みにし、内側に外から見えるモニターを設置し、新津の名所・行事等を放映し新津の活性化に貢献する。

委員氏名	渡邊 彩
事業名	(仮称) こどもとつながり支えるプロジェクト事業
概算事業費	(算定困難な場合は省略可) 250,000 円 講師謝金 (15,000 円)、広告デザイン委託費 (35,000 円)、チラシ印刷費 (10,000 円)、研修ファシリテーター謝金 4 人分(160,000)、保険料(5,000 円)、保育託児費 (15,000 円 (1,000 円×3 時間×4 人) + スタッフコーディネート料)、交通費 (10,000 円 (講師、ファシリテーター))
その他参考事項	<p>①講演会とワークショップのプログラム内容</p> <p>9:00 スタッフ集合 9:30 受付開始 10:00 事業趣旨の説明、講師紹介 10:10 アイスブレイク 10:25 講演「こどもの社会的孤立を防ぐために (仮)」 10:55 休憩 11:00 ワークショップ 「講師の話聞いて考えたこと」 「今の活動、想い」 「社会的孤立を防ぐためにできること」 11:40 全体共有 11:50 アンケート記入・今後の活動への参加希望アンケート 12:00 終了</p> <p>会場：秋葉区文化会館 第1研修室 もしくは、新津健康センター</p> <p>②その後の研修会の概要</p> <p>目的 子どもを支えるためのプロジェクトづくりを行える人「財」育成 研修名 「こどもを支えるプロジェクトづくり研修」 第1回目 アイデアだしと棚卸 第2回目 自分の価値観と存在意義を確認する 第3回目 組織と顧客をデザインする 第4回目 アクションプラン作りとプレゼン</p> <p>なお、次年度以降の活動については以下のような流れをご提案します。 2年度 ・子どもの貧困・子どもの権利・こども理解についての 継続的な学習会の開催とプロジェクトの実施 3年度 ・こどもを支えるプロジェクトづくりの実践と評価</p>

荒井 武雄 委員

「SLと賑わいの歩道」整備事業 別紙



※「秋葉文化会館」催事チラシの案内図をJPO

自治協議会提案事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
伊藤 直	菩提寺山歩道泥道対策	菩提寺山は冬季も含め登山者が多い。しかし、積雪量が少ない時や降雨時には里山ビジターセンターから山頂間の稜線上の鞍部(数ヶ所ある)付近の登山道が泥道状になる。このため登山者が登山道脇を歩き、増々泥道が拡幅していく。登山道が荒廃し、植生が破壊されることを防ぎたい。	1、対策検討会のようなものを作る(登山道修復の専門家にも相談) 2、現地調査を行い、適切な対策を検討する 対策案として 遊歩道整備作業等で発生した伐採木、枝を敷く 外部から砂利、砂、シュロ繊維などを持ち込み被覆する 水はけ改善のための水みちを付ける など 費用(資材費、労務費)は市が負担 3、施工案 1、業者に依頼 2、有志、自治協委員、里山ガイドなどが労力奉仕する いずれかまたは双方  【概算事業費】資材費、労務費
坂上 恵子	うるおいとやすらぎのあるまち	人が集まるまちづくり	秋、新津川の遊歩道 自治協がサケのほりを作って(モデル 加茂川のこいのほり)見てもらう 新津川をきれいにし(新津川のある地域の町内会自治会が管理)、遊歩道の整備(近くのトイレ案内板)、川の堰の保全、水の管理など区がおこなう所々にベンチを置く。
渡邊 彩	これからの教育をつくる〈ひとのわ〉	コミュニティスクールの取り組みが始まりましたが、これまでと何が違うのか、どのような実践事例があるのかについてのイメージが共有されていないように見られます。  そこでまずは、先進事例の情報を得るとともに、関係者が現状と課題について理解し、ともにビジョンを形成するというプロセスを体験することが重要であると考えます。  本事業では、参加者自身がワークショップを通して、秋葉区のこれからの教育がどうあればよいのかを考え、実践する人財として育つことを目的として実施します。  初年度は「語り合う」をメインとし、次年度以降は「動く」「磨く」をテーマに活動内容を検討していきます。	【会場】 可能であれば、薬科大の1階。難しければ、地域交流センター *学生自身が参加できる場所での開催  【対象者】 学校関係者、保育者、障がい者福祉施設職員、公民館、児童福祉関係職員、自治協議会職員、大学生、高校生、保護者、内容に興味関心のある区民  【内容】 別紙参照(P11)
青木 貞義	過去に学び先見性・想像力を駆使した防災訓練及び防災意識の向上	最近では予測が不可能な異常気象や予測ができて回避が不可能な大規模な自然災害により、甚大なる被害が発生している。 しかし、激甚化する自然災害に、過去から学び、先見性・想像力を駆使した防災意識の向上と防災訓練により、人的被害を軽減できることも実証されている。	防災意識の向上を目的に「防災の日」を設定、当日は「防災士の会秋葉支部」や関係する機関・団体などと緊密な連携をとりながら、秋葉区に発生した特異重大な自然災害について、体験者の講演を聴講後、課題や対応などを検証する講演会を開催する。  【その他参考事項】 秋葉区は昭和42年の「羽越災害」以来55年にわたり、幸いにも大規模な自然災害の発生がなかった。このため、災害に対する危機意識が欠如している区役所職員及び区民が多いことは否めない。この現状を打開し、安心・安全で自然災害に対して強靱な我が郷土を創るために防災訓練や防災意識の向上を図ることは喫緊の課題である。

自治協議会提案事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
野瀬山 幸治	秋葉区一斉(11コミ協)防災避難訓練	机上訓練はコロナ禍でもあり、各コミ協・団体等で実施しているが実際の避難訓練は難しくほとんど実施していない現状である。まずは行動「百聞は一見に如かず」体験から得ることが大きい。	いつ 令和5年9月1日防災の日(日時は検討) どこで 各コミ協単位で同一日時で実施 誰が 第2部会全員及び各コミ協の自治協委員 何を 避難訓練のマニュアル作成 どうする 秋葉区一斉(11コミ協)防災訓練実施 効果 自ら行動することで自分の目で確かめて見て知り反省、改善し有事の減災に繋げる その他 緊急告知FMラジオ全戸配布検討、FM新津の活用
伊藤 治好	作って食べよう農業体験	子どもたちの野菜嫌いを減らしたい。	自分で野菜を育て、収穫し、料理をし食べる。 ①プロの農作業を見学する。 ②畑を借りて、みんなで作業をする。 ③希望者にプランター・培養土・種を渡し、親子で一緒に作業し、観察し、収穫する。 ④収穫する前にプロの育てた食材で、みんな一緒に調理をし食べる。 ⑤一連の流れの結果、感想、報告で終了  【その他参考事項】野菜のどこが嫌いなのか考え、調理の仕方を考える。
佐々木 美佳子	秋葉おとな大学 もち麦クッキング	・広い世代に手軽で身体に良い、もち麦を知ってもらい購買を促進する ・秋葉の特産として推奨するもち麦を料理する方法を拡散する。 ・小学校・中学校・幼稚園・町内会・児童クラブ等のイベントに親子で楽しめるようなイベントパックを作成し、より広く広報する。	・令和4年度に行ったもち麦クッキングを更に継続し、拡大をはかる。 ・令和5年度も全3回のクッキングを行いオンライン配信を行う。 ・更に、期間限定で食生活改善推進委員や地元の料理店などとコラボして秋葉区まで食べに来なくなるインスタ映えのもち麦商品を開発する。 ・第3部会だけでなく、参加してくれる飲食事業者を募集する。 ・興味を持ってくれる一般の人に企画会議に参加してもらおう(大学や学生も可) ・イベントパックを作成して、様々な箇所ですべてもらえる動画を作り貸出する。
蓮沼 美宣	楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち  コミュニティスクールの充実	これまで学校へ地域の人たちが自由に入出入りすることができずと考えていました。これを払拭し地域の人材を活用したコミュニティスクールの充実を図る。	8月31日にAkiha教育懇談会が開催されました。その講師による各学校のコミュニティスクール委員を対象に研修会を開催する。 各学校の運営を協議する場だけでなく、学校・地域・家庭が三身一体となった活動ができないか研修会を通じて学び、コミュニティスクールの充実のきっかけを図る。
蓮沼 美宣	楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち  多世代サロンによる情報共有の充実	各地区で実施しているサロンは高齢者を対象に行っているが、多世代が参加するサロンを開催することで世代間の情報共有化を図る。	社会福祉協議会と協働で多世代サロンの検討会を重ね、数か所の地域サロンの開催試行を通じ効果の検証を行う。 多世代サロンにより地域の各種団体の次期活動者発掘への機会が期待できる。
蓮沼 美宣	楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち  食への関心と健康づくり	食べ物の好き嫌いを無くし健康な体づくりを目指す。	農業体験を通じ、食べ物の大切さと美味しさを体験する事業を検討し開催する。 これにより食材を育てる大変さと、その食材の美味しさを味わい理解して食への好き嫌いを解消させバランスの取れた食生活に繋げる。 また、地域の産地食材の販売活性化が期待できる。
蓮沼 美宣	楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち  コロナとの共生	長引くコロナ感染による活動縮小を解消するため、如何にコロナとの共生を図った活動ができるかを学び活動の再開を図る。	各コミュニティ協議会を対象にコロナ感染防止策や各事業の目的を達成するための事業内容改善策の研修会を開催する。 各地域の活動が再開されることにより、楽しく元気な地域づくりへと繋がることが期待できる。

自治協議会提案事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
花水 真由美	コロナに負けないスポーツ活動	コロナ禍で身体を動かす機会が減り、運動不足となっている。免疫力を高める為にも手軽に気軽に誰もが参加できるスポーツ活動があればよいのでは。	年齢問わないラジオ体操や座ったままでもできる体操など、誰もが参加できる形での活動。
金子 洋二	地域経営入門セミナー	コミュニティ協議会の運営に経営感覚を導入し、区民主導で自立的な地域コミュニティの形成に寄与する。	「地域経営」の考え方を学ぶセミナーを開催する。主な対象はコミ協関係者。 基調講演+ワークショップ 区役所企画事業に提案している地区ビジョン策定支援のキックオフとして位置づけることも可能。  【概算事業費】10万円
五十嵐 幸子	持続可能な街づくりへの「地域経営入門セミナー」の開催	持続可能な街づくりの検討をするに当たり、まず基本学習が大切と考え、左記テーマでセミナーを開催する。	講師：金子洋二氏（大正大学地域創生学部准教授） 対象者：自治協委員、各コミ協他関係者、行政委員、市民で希望する人 講師から対象者へ入門講演をシリーズで伝えてもらい、参加者はワークショップをして深め、街づくりの手法、自分たちの課題、取り組みの順のほどを検討していく。
坂口 憲夫	続歴史講演会（秋葉区の偉人講演）開催	秋葉区の輩出した偉人や遺産を学ぶ講座をシリーズで開設する。	・数回にわたり、秋葉区と由来の偉人の業績を学ぶ講演会（専門家による）を開催し、住民に偉業などを知ってもらう機会とする。 ・1講座で1名の偉人の業績について学ぶ。 ・偉人でなくとも遺跡などについて学ぶこともありとし、遺跡にかかわった話なども参考になると思う。 例えば秋葉丘陵の地層が見えているが、その土が高速道路に変わったとか経緯など面白いと思う。秋葉区の歴史が見えるのがいい。
坂口 憲夫	八幡山遺跡と石油の里ハイキング	区民に他の区にはない秋葉区の魅力を認識したり、また感じてもらうため、里山の自然と歴史に触れて秋葉区を学ぶ機会とする。	・11月ごろ ・埋蔵文化センターから八幡山へ上り太古の歴史に触れたり、弥生時代に思いをはせてもらう。 その後石油の里迄ハイキングを楽しみ、ビジターセンターで石油の歴史を学ぶ。（どちらも専門ガイドから解説をいただく。） ・埋蔵文化センターか植物園に集合し、帰りは石油の里からバスを利用したりしてもいいと思う。  【その他参考事項】家族や友達、グループ参加なども見込む。
坂口 憲夫	花いっぱい運動の展開	花の町のイメージを作り、花のまちのPRを進め秋葉区を花いっぱいにする。	・8日と7日を区の花の日と定めてPRをして、まちを花いっばいに飾る。季節的に春か秋の、ある月の7日と8日を開催日にする。 ・主要幹線道路や公共の施設、などに鉢植えの花で飾り、自治協の行事として育てる。またコミ協も花壇などでも育苗をする。 ・鉢植えの育成は業者やコミ協、各種団体と自治協の全員が行い、開催日に持ち寄って飾る。 ・飾った後は団体、個人などで分けたり、継続して飾ったりして管理をお願いしたりする。 ・将来的には学校や公共施設などにもお願いして拡大をはかって広げていく。  【概算事業費】苗やポットなどの備品や生花購入費などを購入

自治協議会提案事業アイデア一覧

委員氏名	事業名(仮称)	目的・趣旨	事業内容・効果
荒井 武雄	「にぎわいの里」ウィーク～音楽と芸能の祭～	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民の芸術・芸能文化への関心を高め、地域文化の推進と引き継がれてきた伝統芸能の維持と発展に寄附する。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在バラバラに行われているイベントが多く、区民に浸透していない。</li> <li>・開催時期の集中と関係団体間の調整</li> </ul>	<p>(1) 開催時期：8月～10月の間の3日程度（例：金、土、日）</p> <p>(2) 会場：メイン会場を「秋葉区文化会館」とし、その他新津美術館、地域交流センター等を使用する</p> <p>(3) 運営主体：自治協議会、秋葉文化振興協会、秋葉区音楽協会、各芸能団体、秋葉区文化会館等を構成員とする実行委員会</p> <p>(4) イベント内容：合唱、器楽等の音楽演奏、舞踊、民謡、ダンス、詩吟等の演奏、パフォーマンス</p> <p>(5) その他：写真、絵画、書道等の展覧会を同時開催する</p>
田中 幸一	はさ木で地域農業活性化の支援（おとな大学）	区役所企画事業「はさ木で地域農業活性化推進事業」を協働で「おとな大学」の事業として取り組み、イベントにして農業の活性化を応援する。	<p>事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 季節に応じて春の田植え体験、秋の稲刈り・はさかけ体験。</li> <li>2. 場所は、市指定文化財の満願寺はさ木並木の近傍の田んぼ。</li> <li>3. 「おとな大学」の事業として、募集した一般参加者に混じって取り組み、イベントにして農業の活性化を応援する（自治協議会のユニホーム着用する）。</li> </ol> <p>効果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史ある文化財（はさ木）の有効活用で宝物を内外へ積極的に情報発信。</li> <li>2. 農業体験を人々で行い、交流人口を生み出し地域農業の活性化を実現。</li> <li>3. 環境に優しい安心・安全な農作物の供給（お土産）を賞味。</li> <li>4. 自治協議会メンバーが協働する事で自治協議会の認知度向上。</li> </ol> <p>【その他参考事項】</p> <p>区役所企画事業「はさ木で地域農業活性化推進事業」がR5年度に企画されてあれば協賛する。無ければ自治協議会「おとな大学」の事業として受け継ぐ。</p>
1 部会	きらめきサポートプロジェクト	地域の課題解決につながる事業を広く募集し、自治協議会が協働することにより、取り組みが深化するようなサポートプロジェクトを行うことにより、市民と行政、市民と他団体との「かけはし」となる。	「きらめく」秋葉区に向けて、地域に眠る人材を発掘するため、地域課題の解決につながる事業を募集し、自治協議会が協働することで、取り組みが深化するような事業を選定し、実施する。

委員氏名	渡邊 彩
事業区分	自治協議会提案事業（ 主は3部会 ・ 横断的 ）
事業名	（仮称）これからの教育をつくる〈ひとのわ〉
事業内容・効果	<p>【 内容 】</p> <p>第1回 いま、秋葉区の教育について考えていること →「子どもの学び」についての課題・現状を語り合う 5月ころ *学校が始まって少し落ち着いたころ。</p> <p>第2回 あたらしい学校をつくる オンラインもしくは教育懇談会 →「これからの学びの場がどうあったらいいのか」について 語り合う。秋葉区での実践事例紹介。 8月ころ *夏休み中だと学校の先生も参加しやすい。</p> <p>第3回 学びのフィールドとしての地域 魚沼塾の取り組み オンラインもしくはリアル 茂木和佳子さん（高校教諭） →「子どもの学びを支える組織」について語り合う 10月ころ *2学期が始まって少し落ち着いたころ。 *次年度の動きが出てくるころ。</p> <p>第4回 これからの、学校と地域のつながりかた →「自分たちの地域でどのように取り組んでいけるか」 具体的なアクションプランとスケジュールを立ててみる 1月ころ *年度末のいそがしい時期が開けたころ。 *次年度の計画を具体的に立て始めるころ。</p>
概算事業費	<p>（算定困難な場合は省略可） 202,000 円</p> <p>【内訳】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講師謝金（30,000 円：事例紹介講師 10000 円×3 人）</li> <li>2. 広告デザイン費（35,000 円）</li> <li>3. 印刷費（10,000 円）</li> <li>4. ファシリテーター謝金（20,000 円×2 人×2 回：第1回と第4回）</li> <li>5. SNS 等広報謝金（10,000 円）</li> <li>6. 保育託児費（第1回と第4回） （3,000 円×4 人×2 回＋コーディネーター料 3,000 円）</li> <li>7. 保育保険料 10,000 円</li> </ol>
その他参考事項	*イエナ・プラン実践に関しては、現在、妙高市教育委員会で取り組みが進められているようです。過疎地で特色ある教育を行う場合は、「移住促進としての教育」という側面がでてきます。